

◎祝賀会から

## 御受賞おめでとう

東隆眞（駒沢女子大学学長・文学博士）

このたびの横浜善光寺留学僧育英会理事長黒田武志老師の曹洞宗特別奨励賞受賞おめでとうございます。

どのような意味において、おめでたいのかということではありますが、私は、次の三点から申しあげたいのであります。

第一は、曹洞宗特別奨励賞は、黒田老師にふさわしい賞典であります。

もともと、この曹洞宗特別奨励賞は、平成七年、五〇年に余る長きにわたって駒澤大学の教師として御指導いただいた駒澤大学第二四代総長鏡島元隆先生、先生は本年二月九日、満八八歳でご遷化になりましたが、退職金の金額および曹洞宗からの助成などを合わせた六千万円を

宗門、学界に寄附されたものによって成り立っているとうかがっているのであります。それは、ひとえに人材の育成、後進の育成を願つてのことであろうと察しております。

横浜善光寺留学僧育英会は、昭和五九年、善光寺開創一五周年記念事業の一つとしてつくられ、黒田老師が知事長となり、ここにいらつしやいます奈良康明先生、そして私はその末席をけがして理事として今日に至っております。この育英会は、要するに、規約の第二章第三条にかけてありますが、仏教の興隆、国家社会の進運に寄与しうる有為の人材を育成することを目的とするのであります。

鏡島先生は、昭和五九年の創立頭初から、育英会の顧問として御指導、御協力を注いできております。鏡島先生は、この育英会を高く評価されまして、実は曹洞宗特別奨励賞を黒田老師が受けてほしいということを、身近かな者にも

洩らしておられたのであります。鏡島先生は、昭和六一年四月、駒澤大学総長に就任されるまでの五年間にわたって駒澤大学茶道部の部長をつとめられました。黒田老師も駒澤大学茶道部一服会に在籍し、一五年間にもわたって、その会長をつとめていました。

こうして、鏡島先生と黒田老師とは駒澤大学茶道部の部長として会長として名コンビよろしく人事の配置の妙をえて、その発展と興隆に資するところがあつたのであります。

第二に、このたびの受賞によって黒田老師の偉業というか苦勞というか、宗門的に位置づけられたことを、私はよろこぶものであります。

横浜善光寺留学僧育英会は黒田老師の若いころの修行、修学の辛苦の体験が基因となって発案されましたが、これを倫子夫人と檀信徒の皆さま方の御理解、御協力を得て、今日に至っております。一個人というか一か寺というか、単



ご祝辞を述べられる東先生

独のお仕事であります。一七年経つた今日では採用総数一〇二件、関係国二〇か国一地域になりましたが、もちろん、ここに至るまでにはたいへんなご苦勞があつたことを、私は承知しておるのであります。黒田老師はもちまへの行動力と慎重な周囲への配慮をめぐらし、幾多の難関を突破し、今日に至つたのであります。これをまず認めていただいたのは仏教国スリランカの政府公認の慈善団体サラナンダ財団であり

ます。育英会の事業を高く評価して榮譽を賞し、  
ダルマ ケールテイ スリ ローカルタ チャ  
リエ（仏教の発展に寄与し世界人類の幸福と繁  
栄に尽す）という称号を与えられました。平成  
一〇年、スリランカ国をあげてのお祝いであり  
ました。そして、その翌年、曹洞宗管長は、賞  
状と安陀衣一肩をおくり、これをたたえたので  
あります。

そして、このたびの受賞であります。駒澤大  
学松田文雄総長は「曹洞宗特別奨励賞は曹洞宗  
のノーベル賞だ」とおっしゃったと洩れ聞いて  
おります。

この度の受賞でそのご苦勞が報いられたのは  
黒田老師の倫子夫人であり、また黒田住職を信  
頼して全面的に協力してきたことが、それが客  
觀的にも間違いではなかったとよろこんで下さっ  
ている善光寺の檀徒の皆さまがたであります。

第三に、日本仏教は、学問的、思想的には世





席上謝辞を述べる黒田老師

界のトップ・レベルをゆくけれども、

その実践力とくに社会的活動においては極めて低調であると指摘されていると思われるのでありますが、こ

のような避難、批判をはねかえす証

明が、黒田老師の育英事業であり、このたびの受賞であります。私どもの宗門にはシャンティ国際ボランティア会や長野県藤本幸邦老師のいわゆる里親運動をはじめ、いくつかの社会的、現代的、国際的活動や活動体がありますが、人材育成という地味で息の長い事業に黒田老師はとりくんでおります。これは宗門の誇りであり、日本仏教が現代に存在している証明であります。

このことが、このたびの受賞によって一層明らかにになりました。

黒田老師の育英事業に注目し、人材育成や学術研究の助成を實行していらっしやる寺院が東京にあります。とてもすばらしいことだともいます。このような菩薩の誓願に燃える仏教寺院が、これからも陸続と登場することを願うものであります。

以上、とりいそぎ三点から、黒田老師曹洞宗特別奨励賞受賞をおよろこびしたのであります。

黒田老師のますますの御健勝と育英会の限りない発展をお祈りして、簡単ではございますが、ひとこと祝辞を申し述べる次第でございます。

(注 鏡島元隆先生の足跡については『成寿』32号にご紹介されています。)